



株式会社 新興測量設計
代表取締役

石原 健二

「私たちの仕事は決して表立って目立つ仕事ではありません」と語る石原社長。けれども『新興測量設計』が手掛ける測量設計業務は、未来の社会資本整備に欠かせない。常に地域に根差し、まちづくりを支えるまさに縁の下の力持ちだと言える。本拠地を置く熊本を襲った大地震の際には、いち早く現場に駆けつけ測量設計に尽力。そうして最前線で復旧・復興を力強く後押ししてきたのだ。「地域の安心・安全をつくる」——その責任と誇りを胸に、技術者集団として高みを目指す。

**「常に技術の向上を目指し、プロであり続け
地域の安心・安全をつくっていききたい」**

磨き上げた技術で多様なニーズに応え 安心・安全な地域未来の基盤を支えたい

熊本県を拠点に、測量業や公共工事を中心とした建設コンサルタント業務を軸に手掛ける『新興測量設計』。創業以来44年にわたって、確かな技術力と豊富な専門知識で以て実績を重ね、信頼を紡いできた土木技術のプロフェッショナル集団だ。本日は、タレントの野村将希氏が同社を率いる二代目・石原社長のもとを訪問。様々な想いに触れた。

——早速ですが、石原社長の歩みからお聞かせ下さい。

ここ熊本で生まれ育ちました。スポーツが好きで、小学生のころは野球に打ち込んでいましたね。今はテニスとゴルフで息抜きをしています。高校卒業後は、母の実家が測量専門学校の寮を運営していたということで、母に勧められて測量専門学校に入学しました。

——そこからこの道一筋に歩んでこられたのでしょうか。

ええ。専門学校を卒業して就職したのがこの『新興測量設計』でした。当初は現場の最前線に立ち、測量業務の経験を積むことに。山に入って、道なき道を進んで測量するんです。そうして10年ほど現場で下積みを重ねた後は、設計業務に携わるようになりました。測量したデータを基にして、道路や橋の設計をするという仕事ですね。そうしてキャリアを蓄積する一方で、関連する資格取得にも力を入れてきました。技術者にとって資格は名刺代わりになるものですからね。そして5年前に先代から代表職を引き継ぎ、現在に至っています。

——社員から社長になられたのですか？

私が30代のころから、先代には「後

継者にならないか」と声をかけていただいていた。先代のご子息は医師でしたし、私にとって先代は高校の先輩でもあるので、そういったご縁もあったのでしょう。ただ私自身、社長という重責を担っていきけるのかと随分悩みましたね。けれども、そんな中で先代が病気になられたこともあって、一念発起して事業を継承することを決めました。

——先代はどんな方だったのでしょうか。

「思うようにやってみろ」と言って下さり、いつも私の背中を押してくれました。測量業界では日進月歩で技術革新が進み、次々に新しい機器が出てくるんですね。その中で私が興味を持ったものについては、惜しげもなく設備投資して下さいました。そのお陰で、様々なことを学ぶ機会に恵まれたんです。さらに、「もし挑戦してみても失敗しても、自分が責任を取るから」と常におっしゃって下さいました。だからこそ、失敗を恐れることなくチャレンジし、技術を磨いていくことができました。先代には本当に感謝しています。

——先代の篤実なお人柄が窺えます。それにきっと、社長のセンスを見込んでおられたのですね。代替わりからの5年間を振り返ってみていかがですか。



After the interview

野村 将希

(タレント)

社長だからとふんぞり返ったり、上から目線でものを言ったりするのではなく、従業員さんの目線に立って行動され、常に謙虚でいらっしゃる石原社長の姿勢に感銘を受けました。きっと先代も、社長のそういったお人柄を見込んで、後継者として白羽の矢を立てたのだでしょうね。今後のご活躍を期待していますよ！

株式会社 新興測量設計

【本社】 熊本県熊本市東区上南部 3丁目 32番 8号
 【玉名支店】 熊本県玉名市立願寺 459-2
 【八代支店】 熊本県八代市井揚町 1987-4
 【合志支店】 熊本県合志市須屋 1635-305
 【菊陽営業所】 熊本県菊池郡菊陽町津久礼 3726-11
 【大津営業所】 熊本県菊池郡大津町大字 772-3
 【宇土営業所】 熊本県宇土市岩古曾町 480
 【上天草営業所】 熊本県上天草市松島町今泉 214-2
 URL : <http://sinkou-ss.co.jp>

株式会社 AMC シビルテック

熊本県熊本市東区上南部 3丁目 32番 8号

Company data

それまで先代と共に一緒に歩んできた従業員にも受け入れてもらえましたが、多くの人に恵まれ、支えられてここまでくることができました。経営者としては利益を追求し、会社を成長に導いていくことを一番考えるべきなのかもしれません。けれども経営者として数字を見ることはもちろん、私自身はずっと技術畑一筋に歩んできましたから、「一技術者の想い」も大切にしたい——双方のバランスを取りながら事業を推進してきたんです。最も力を注いできたのは従業員が仕事に誇りを持ち、やり甲斐を感じながら働ける環境をつくること。それが実現できれば、利益は後からついてくるはずだと信じています。

——社長が技術者と同じ目線に立ち、真摯に向き合う。素晴らしい姿勢ですね。だからこそ、皆さん「この人についていこう」と思うのだと思います。

私は現場上りの人間なので、現場の大変さ、つらさを身をもって経験し、常に従業員の気持ちになってきましたから、「今何が必要なのか」をしっかりと考

えていきたいと思っています。

——従業員さんに対していつもおっしゃっていることはありますか。

従業員に対しては、口うるさく言うことはありません。失敗を恐れず、常に前向きな姿勢で積極的に取り組んでほしい。自主性を大切に、できるだけ一人ひとりの裁量に任せるようにしているんです。朝礼などの際には、「仕事を愛すること」の大切さや働く喜びについて、私自身がいつも心がけている「いつも明るく朗らかに」という姿勢を持ってほしいといった話をすることはありますね。

——お話しを聞かせてもらって、最後にこれからの展望をお聞かせ願います。

直近では新社屋を建設したいと思っており、着々とその準備を進めているところです。今後の目標としては、売上も従業員の数も今の倍に増やしたいという想いがありますが、先ほども申し上げたように数字ばかりに固執したくはありません。常に柔軟な発想で以て事業を推進し、まずはより効率的に、よりの確に仕事が進められるような体制を確立していけた



代表取締役
石原 健二

らと考えています。また今後一層多様化していくであろうニーズに十全に応えるためにも、ICTなど最先端の設備投資を積極的に進めていきたいですね。ドローンを活用した3D測量にも挑戦したいと考えています。それから、引き続き従業員の資格取得をサポートし、信頼される技術者としての成長を促していければと思います。より良い職場環境を創出することは、従業員のモチベーション向上につながっていくはず。それが、ひいては会社としての成長の大きなエンジンになると確信しています。

(2020年2月取材)



熊本を襲った震災、その最前線で復旧・復興に尽力

Column

▼2016年4月に発生した熊本地震。二度にわたって震度7の揺れを記録するなど、熊本県と大分県を中心に甚大な被害をもたらした。「最初の地震が起きて1時間後ぐらいに、被害状況の調査依頼がありました」と当時を振り返る石原社長。復旧・復興のためには、まず状況を把握するための測量を行うことが第一歩——混乱の中、社長らはすぐに現場調査に入った。そして、即時被害状況の報告と災害復旧に対する測量設計に尽力したという。復旧・復興といえば、どうしても自衛隊やボランティアといった存在ばかりが目立ちがちだ。けれどもその陰には、『新興測量設計』のように最前線で地域社会の安全・安心の確保を担う技術者集団が存在している。「決して注目されるような仕事ではありませんが、私たちは常に地域に根差し、まちづくりを支えています」と胸を張る社長。その矜持で以てこれからも事業を通じて地域社会を支え、その発展に貢献していく。

